

6-1 食道炎〔しょくどうえん〕

胃潰瘍〔いかいよう〕

大腸炎〔だいちょうえん〕・過敏性腸炎〔かびんせいちょうえん〕

- ◇食道炎－高齢者では食道胃括約筋の加齢による筋力低下により胃液が容易に食道に逆流して食道炎を起こしやすい。加齢に伴う食道裂孔ヘルニアによる食道炎もある。
- ◇胃潰瘍－胃の粘膜に常在する細菌であるヘリコバクター・ピロリ菌が原因の一つ。高齢者では、消炎鎮痛剤によることも多い。
- ◇大腸炎－ウイルス、細菌、薬物により起こる。潰瘍性の大腸炎もある。
- ◇過敏性腸炎－機能的消化器系疾患。心身症の場合もある。

| | |
|------|--|
| 主な症状 | <p>食道炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 胸やけ、前胸部の不快感、飲み込むときのつかえる感じなどがあり、持続的なこともあれば、食後仰向けになった時に限られることもある。 <p>胃潰瘍</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 腹痛（特に空腹時）、嘔気、嘔吐。潰瘍によっては吐血及び黒色の下血を伴うことがある。 <p>大腸炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下痢と腹痛で大便は泥状、水様性、血性、粘血性など。これに伴い倦怠感、食欲不振、発熱を伴うこともある。多量の下痢に対して適切な補液をしないと重症の脱水状態に陥る。 <p>過敏性腸炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多くの症状は下痢だが、便秘あるいは両者が混在している場合もある。気候・環境の変化、食事、精神状態で症状が変化する。 |
|------|--|

| | |
|---------|---|
| 生活上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ● 吐血・下血・嘔吐・下痢・下痢と便秘を繰り返す等の症状がある場合、早めに受診をする。 ● 食事は刺激物や脂っこい食事を控える。 ● ストレスを避け、睡眠時間を十分に取れるような生活パターンをつくる。 ● 禁煙を実施する。 ● 下痢の場合は腹部を温める。脱水になりやすいため水分補給を心がける。 |
|---------|---|

| | |
|-----------|---|
| ケアマネジメントの | <p>〈介護サービス事業者・医療関係者との連携のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 原因（食生活やストレス等）を把握できていればプランに組み入れ、事業者間で連携して対応する。 ● 入れ歯が合わないためによく噛むことができず、消化不良になる場合もあるので、入れ歯の調整をすることも重要。 |
|-----------|---|

| | |
|-------|---|
| 代表的な薬 | <ul style="list-style-type: none"> ● 酸分泌抑制薬（タケキャブ、タケプロン、パリエット、ネキシウム、ガスターなど） ● 酸中和薬（マーロックス、炭酸水素ナトリウムなど） ● 防御因子増強薬（セルベックス、ムコスタなど） ● 過敏性腸症候群治療薬（コロネル、トランコロン、イリボーなど） ● 潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬（ペンタサ、アサコールなど） |
|-------|---|